

春の七草のこと

和田陽平



七草なつな

とうとのとりの

にほんの土地に

渡らぬさきに

ストントン

正月七日の朝、まだ暗いうちに、桶の上の俎に載せた七草を、庖丁で叩いて噓す行事は、私の子どもの頃には、とうの昔に廃れていたが、七草粥だけは必ず作ることとなっていた。もっとも七草粥とはいっても、細かく叩いた小松菜を入れただけの菜粥であったが、碗に盛っ

て、ばらりと塩を振った味は淡白で、鮮かな緑と、爽やかな菜の香りは好ましいものであった。

芹なつな、ごぎやうはこべら、ほとけのざ

すずな、すずしろ、これぞ七草

ごぎやうは今のハハコグサ、すずなは蕪、すずしろは大根だが、問題はほとけのざである。現在の唇形科——シソ科——のホトケノザは迎も食えたものではないので、おそらく菊科のタビラコであろうというのが、たしか牧野富太郎先生の説であった。

タビラコはタンポポに似ているが、一つの茎にいくつ

かの小さな黄色い花をつける。タンポポの葉はダンドリ
オンの名の通り、ライオンの歯のように鋭く切れ込んで
いるが、タビラコの方は、それより丸味を帯びている。
早春の頃に、地べたに丸く広げた葉の形が、仏座に似て
いるので、この名が付いたものだろうという。

ナズナは俗にいうペンペン草のこと。春先きに罌粟粒
ほどの小さな白い花をつけるが、その穂先のほんの一、
二種ほどを摘んで茹で、御ひたしか、胡麻あえにすれ
ば、結構食べられる。摘む指触りの柔らかさに、つい長
く摘み過ぎると、口のなかにごそごそと、爪楊枝のよう
な硬い筋が残って始末に悪くなる。この頃は山菜ブーム
で、野草を食うことが流行るが、そんなに旨いものが、
やたらに生えている筈がない。山菜弁当などを無理に旨
がっているのは気の毒である。

現在の草餅はヨモギを用いるが、昔はハハコグサを使
ったものらしい。私はハハコグサの草餅を試みたことは
ないが、辰巳浜子女史によれば、ハハコグサをさつと茹
でて細かく刻み、白玉粉に捏ね合せ、丸めて茹で上げ、
小豆餡をまぶすと美味だそうである。ヨモギ餅は春の香
りがするが、これは果してどんなものであろうか。

春の七草は食べる草だが、私なりに見る七草を選んで
みたい。

いつかと、まちし、花さきて、

日も、あたたかに、なりにけり。

とも、さそい、かご、さげて、

すみれ、つみ、れんげ、とり、

——明治三十四年、幼年唱歌より——

スマイレ、タンポポ、レンゲ草、それから噓せるような
菜の花は春の盛りを飾る花であって早春の草ではない。

私は春も浅い頃の路ばたの雑草から七草を選びたい。

イヌフグリ。この名は種子のふくらみが、行儀正しく
二つ並んだ実の形から来たものである。正しくはオオイ
ヌフグリ。遠いベルシャの国あたりから渡来したこの
草は、今では路傍到る所に生える雑草になっている。早
春の風に揺られて群れ咲いている瑠璃色の小さな花は、摘
みとれば未練気もなく、ばらりと散ってしまう。私は、
この花が大好きだが、鉢に植えてもうまくいかない。矢
張り路ばたや、畑のふちなどに、ぬくぬくと咲いている
のがいいようである。

カタバミ。路ばたや、石垣のすき間の日当りに咲く、

カタバミの五弁の小さな黄色い花も、暖かい春の花である。花期はイヌフグリよりも遅い。葉の色にえび茶色と緑色の二種類がある。噛めば酸っぱい味がする。

ミミナグサ。耳菜という名は、細かいうぶ毛の生えた小さい葉の形が鼠の耳に似ているからという。彼岸前はまだ風も肌寒い季節に、芽生えた四枚の葉を、十字形に地べたにひろげた姿は、春の訪れを告げて可憐である。日数がたつて、目につかない程の小さい花が実になる頃は、そそけだつて見るかげもない。

ハハコグサ。花は黄色い粟粒を寄せたような目立たない花である。これもむしろ、白い綿毛におおわれた兎の耳のような葉を見るべきであろう。私の幼い頃、子ども達はこの草をワタグサと呼んでいた。

スズメノカタビラ。何処の路ばたにも生えている。僅か一、二寸の、この小さなイネ科の雑草は、真冬にも柔かい青い葉を茂らせており、春に先駆けて、うす緑の優しい穂を出す。年ごとに冬の寒さの身にこたえる此の頃の私には、とりわけ、この草の穂が待遠しい。

タネツケバナ。よく見れば薺花すずなさく垣根哉。薺すずなの花も

趣きがあるが、アブラナ科の雑草では、私はむしろタネツケバナをとりたいたい。路地や田の畦などに生えて、米粒ほどの小さい白い花が、アブラナ科特有の穂になって咲く。葉は丸味を帯びた小葉を羽状につけた形で、草全体の姿は薺すずなよりも小さく、優しい。

露の花。露のとうは美味である。熱湯でゆがいてから、醤油で青味の残る程度に、さつと煮るのも旨いが、それよりも熱い味噌汁に、生のままを指でむしって振り込むのが最上である。だが、私は庭の露のとうの二つ三つは食べるのを我慢して花を咲かせることにしている。この薄いひわ色の花ほど、早春の暖かさを示すものは、ほかにないからである。

私の好みで七草を選んでみたが、その色は黄、白、緑、青で、赤い色がないのは淋しい。だが、ヤブケマンやレンゲソウは春も開ひらけた頃の花である。透きとおるような緋色の草木瓜をあげたいが、これは木であつて草ではない。